

第6回湯沢市地方創生推進会議 議事録

- 1 日 時 平成28年5月19日(木) 10:00~11:45
- 2 会 場 湯沢市役所本庁舎4階 会議室41
- 3 出席委員 11名(欠席2名 渡部、平野)
- 4 案 件 湯沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行状況について
- 5 そ の 他 平成28年度における地方創生の取組みについて

案件での発言要旨

(事務局から資料について説明)

案件について

- 委員 ①発注の体験事業があるが、体験で終わらずにビジネスとして軌道に乗るようになっているのか。
②在宅ワーカーについて、どのくらい仕事をしているのか。
- 市 ①助成もしながら体験してもらったが、体験した企業から、「安い料金で数多くのアイデアを見ることができ、その中から選ぶことができる。また、仕事が早い。」との声があった。継続的に活用する動機になると思う。
②始まったばかりの取組みなので実績を把握するには至っていないが、クラウドソーシングのサイトは多数あり、自分の得意ジャンルの業務を都合の良い時間に選択できるので、継続的に仕事ができると考えている。今後はアンケート等で動向を注視していく。
- 委員 ①ワーカー28名の平均月収はどのくらいか。(職業としての収入になっているかどうか)
②ふるさと納税が増加している要因は何か。
③「音楽のまち“ゆざわ”」としている割には、イベントへの動員数が少ないのではないか。市の柱として発信していくならば、目標値も低い。
- 市 ①ワーカーとして仕事を始めたばかりなので、月収は把握していないので今後調査していく。なお、スキルアップさせることで所得を向上させたいと考えているので、クラウドソーシングでどれくらい稼げるようになるかについては時間をかけて取り組みたい。
②「ふるさとチョイス」への掲載、返礼品数の増加、ネットでの簡単決済の3つが上手くかみ合ったことによると思われる。4月時点で、今年は前年比2割増し程度の状況となっている。

③今までの参加人数は、「サマーミュージックフェスティバルへの参加人数である。しかしながら、このイベント1つだけで「音楽のまち“ゆざわ”」とは言えないので、今年度どう盛り上げていくか議論していくことになっている。

○委員 「音楽のまち“ゆざわ”」について、音楽を全面に出してPRするという事は、交流人口も重要になってくるが、交流人口を増やすのは難しいので、相当労力が要るのではないか。「これで本当に人が集まるのか」ということを深く議論してもらいたい。

●市 「音楽のまち“ゆざわ”」については、吹奏楽や合唱だけではなく、軽音楽やジャズ、ロックなどの愛好家さんを組織化しながら、かつ散発的にやっている音楽イベントをパッケージ化しながら、一連の音楽イベントとすることで情報発信していきたい。

○委員 ワーカーが魅力的な職業となり、選択肢の1つとなるようにしてほしい。

○委員 湯沢文化会館は音楽施設として素晴らしいと聞いているので、施設をどう利用するかについても積極的に議論してもらいたい。全国にアピールし、ミュージシャンの利用を増やす等工夫の余地があると思う。

●市 行革の計画で、アウトソーシングの項目に文化会館がある。民間のノウハウや知識、アイデアを活かしながら、ポテンシャルが発揮されるような活用をしてきたいと考えている。

○委員 若者と女性の活躍の推進に関する条例について、どういう形で進んでいるのか教えてほしい。

●市 若者をターゲットにした条例が全国的にも少ない状況だが、これからの若者や女性の声を市政に反映させるために条例が必要だと考えている。市民も参加する委員会で議論をし、3月議会に上程する予定。

○委員 自分も含め、地元民でも湯沢市のことで知らないこと（地熱を活用してトマトを作っていること等）が多いので、需要を掘り起こす前に、工夫を加えながら市民に周知していくことも大切ではないか。

●市 地域の良さを知ってもらいながら外部に発信しているのがジオパーク活動だが、その最たるものが地熱なので、上手くリンクさせながら、一緒に盛り上げていきたい。また、市としての情報発信・広報力強化をするためにひびく・つながる創造課があるので努力していきたい。

- 委員 CCRCの実現は難しいと考えているが、ゆざわ版でやる場合の実現可能性や他と違う特色があるのか。
- 市 中心市街地（都市計画）見直しの議論と併せてCCRCについても考えていきたいと思っている。また、市内の福祉関係団体とも検討していきたい。
- 委員 市民の現実的な生活に根差した計画にしてもらいたい。
- 委員 希望どおりの数の子どもが持てるのが、家庭の基本だと考えているが、まだ数値の出ていない男性の育児休暇取得率はどうか。行政としてどのようなアプローチ・アクションをしているのか。
- 市 男性の育児休暇取得率は現状ではかなり低いものと認識している。今後の展開として、例えばテレワークの導入が現実的になった場合には市内の企業にもPRし、男性が育児に参加する気運の醸成に繋がりたい。
- その他について
- 委員 新規就労者が減少しているが、増加させるためにどのように取り組んでいくのか。
- 市 増加と減少を年度ごとに繰り返す傾向ではあるが、働く人を1人でも多くすること、働き方の質を向上させることを目指して各種事業を展開していきたい。
- 委員 日本遺産の認定では、1つの建物が建つまでにどういったストーリーがあるのかを踏まえて申請することが多く、観光でも、湯沢市だけではなく、他市や県全体的な歴史や流れを意識してもらいたい。
- 市 現在も他市町村や他県にまたがる連携を行っている。湯沢市が中心となりつつ広域的に連携して観光PRをしていきたい。
- 委員 どの業界でも若年者の就労数が少ないと思うが、新規就労にはマッチングの問題が発生する。新規就労は定住にも関わってくるので、この会議でもそういった特定のテーマを絞って議論する必要があるのではないか。
- 市 計画を策定し進捗を管理するのがこの会議の主な目的ではあるが、行政だけでは考えが行き詰ることもあるので、今後の会議の進め方を検討する際に工夫させていただく。